

ートピック1ー

進む！公立はこだて未来大学との連携事業

事業概要

本館は公立はこだて未来大学（以下「未来大学」）と平成 23 年度から企画展の印刷物等のデザインをはじめとした連携事業をおこなっています。平成 25 年度は 2 年生を対象に企画展「函館商人の人生模様」を題材に、展示会の説明と博物館における情報とデザインという内容の講義をおこないました。これを元に未来大学が毎年開催している「はこだて未来展」において、展示提案というかたちで講義を受けた 2 年生による発表もおこなわれました。

未来大学との連携事業は、科学技術振興機構の支援を受けた「問題解決型サービス科学研究開発プロジェクト」事業の一環でもあります。このプロジェクトでは「触発」をキーワードに、博物館における「サービス」をより効果的におこなうための研究がなされています。さらには、入館者数だけではなく「サービス指数」とでもいうべき評価で博物館を検討していくという視点にもなっています。

インフォグラフィックス展

未来大学の情報デザイン 1 の授業における博物館との連携事業において、2 年生を対象に平成 26 年度特別展「五稜郭築造と箱館戦争」に関する解説およびインフォグラフィックス展をおこないました。

6 月 19 日に特別展の展示解説を行い、各自で取り組むテーマや資料を見つけ、さらに実際に自分たちが展示する場所の確認もおこないました。

この後、7 月 19 日に開催された「はこだて未来展」の中で、特別展をよりわかりやすくするための「インフォメーショングラフィックス」の発表が学生によりおこなわれました。発表の内容は特別展の内容をきっかけに学生が独自に調べた箱館戦争・五稜郭築造・人物紹介などです。多くの情報が反映されていましたが、典拠が示されていないため真偽の問題がある作品も見受けられ、典拠を示す必要があるという指摘をしました。デザインや内容の変更をしたパネルを 8 月 4 日に展示し、特別展期間中に一般公開しました。

情報ブース

未来大学との連携事業および「問題解決型サービス科学研究開発プロジェクト」事業により、博物館内に博物館資料および函館の歴史・文化等の情報提供を目的で「情報ブース」を設置することになりました。

設置にあたり、従来のような展示室内の 1 コーナーではなく、展示ケースを利用することにしました。普段は外からしか見ることのできないケース内で非日常的空間を体験することができるとともに、ブース利用者が展示資料的役割を担うことも意識しました。

情報ブースのコンセプトとしては、「過去、現在、未来」とし、「過去」は未来大学がおこなってきた図書館や博物館資料のデジタルアーカイブの成果を、「現在」は函館の史跡や文化財の紹介、「未来」は未来大学の研究内容などにスポットをあてています。

4 月に木村健一教授および関係学生に博物館側に提案する情報ブースについて説明を行い、6 月に、五稜郭築造 150 年を記念して市内に設置された「リトファスゾイレ」（円筒形掲示板）を活用した内容を中心としたものにするのを決定しました。10 月 3・4 日に公開設置作業を行い、5 日に開設しました。

資料のデジタル化

未来大学ではこれまで、函館市中央図書館が所蔵する古地図や古写真等のデジタルアーカイブ事業を行っており、その成果は図書館ホームページのデジタル資料館で公開されています。

本館においても未来大学のデジタル撮影技術を活用し、昨年度は開拓使が函館博物場開設の際に作成した魚類等の剥製を中心に撮影しました。その成果の一部は、情報ブースにおけるフリップフォトブック（ローンを回転すると写真がぱらぱらめくれ、動画のように観察できる装置）に活用されています。

今年度は、本館所蔵の蝦夷錦の高精細撮影とバイダルカ（開拓使収集のアリュートの三人乗り皮舟）の内部撮影を行いました。これらの成果は来年度開催予定の特別展等において公開を予定しています。

博物館事業に新たな切り口！

指定文化財を積極的に公開

本館では道内でも有数の指定文化財を所蔵しており、国指定「北海道志海苔中世遺構出土銭」や「アイヌの生活用具コレクション」（北方民族資料館）などは常設で展示しています。このたびお客様からのニーズにお応えして、ミニ企画展「本当はスゴイ！サイベ沢遺跡」において北海道指定有形文化財「サイベ沢遺跡出土の遺物」を全点展示し、企画展「博物館のお宝コレクション」において函館市指定有形文化財「アイヌ風俗 12 ヶ月屏風」を展示しました。



函館市指定有形文化財「アイヌ風俗 12 ヶ月屏風」

蓄音器大人気！

10月3日に開催されたカルチャーナイトに本館も出展し、郷土資料館を訪れた192名のお客様に蓄音器の音色をお楽しみ頂きました。子供たちは電気もないのに音が出る蓄音器に興味津々！高齢者の方々も、SPレコードに録音された美空ひばりなどの歌声を懐かしそうに聴き入っておられました。



どうして音が鳴るんだろう？

ITによる情報発信強化

本館では、今年度から未来大学と共同してデジタルアーカイブ事業に着手し、デジタル化した資料を新設するホームページで広く公開するよう取り進めています。またこれとは別に、博物館が事務局を務める道南ブロック博物館施設等連絡協議会でも、コラムリレーやアドベントカレンダーなどのブログ記事をとおして、イベント告知にとどまらず、各館の資料紹介や現在進めている調査・研究の進捗状況など、興味深い情報を随時発信しています。



道南ブロック研修会「文化財マップとオープンデータ」

続く 地道な資料整理

博物館の役割の一つに資料収集があります。大量の資料が一度に入る場合もあります。収集した資料は整理し保存しますが、派手な展示や講座と違い、薄暗い収蔵庫で黙々と作業をしなければならない、日の当たらない仕事です。しかし、この地道な作業を怠ると収蔵庫はすぐに林となり、やがて森となる場合があります。そして、一度手を入れた森は手入れをしないと荒廃するといえます。

日本有数の長い歴史を持つ本館の収蔵庫も、時には森のようになりました。しかし、暑い日も寒い日も少しずつ森に通い、道を作り枝を払うことで、日が差すようになりました。

具体的には、棚番号・箱番号を付け、箱に入っている資料を一点一点リストと照らし合わせるという作業です。一部の大型でまとまりのある資料は、収蔵展示という形で一覧できるようにしました。外からはなかなか気づかれることのない地道な作業ですが、これからも作業は続いていきます。